名古屋芸術大学 美術学部・デザイン学部 同窓会情報誌

NU PRESS

2009年10月15日発行(年1回発行)第16号　発行・編集／名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部同窓会事務局
〒481-8535　愛知県北名古屋市徳重西沼65　Printed in Japan

2009 no.16

Q.アートをクリエイト?

'08年度よりスタートした、美術学科「アートクリエイターコース」。2年目を迎え学生数も60名近くなり、ますます賑やかになってきました。
「アートクリエイターってどんなコース？」そんな基本のところから、担当教員でもある西村正幸教授にお話を伺っていきます。

新設のA. アートクリエイターコースをご紹介します。

デッサンという壁。

——アートクリエイターという新コースについてですが、設立するきっかけ、そして既存のコースと何が違うのでしょうか?

受験生を送り出している高校などの現場からは、「芸大に行きたいが、美術研究所などに通ってまでは…」とか、「デッサンも大学に入ってから学べば良いのでは？」と考える父兄がかなりいらっしゃるのを目の当たりにし、従来の実技系美術・デザイン学部受験生と被らない層をターゲットに、学内だけでなく他大学とも競合しない、美術学部改編の目玉の一つとしてスタートさせました。

学部改編は経営的な観点から言えば、ハイリスク・ノーリターンまたはローリターンの多い昨今にあって、大学としてはノーリスク・ハイリターンな改編だったとつくづく思います。けして多く無い広報予算、受験者数も予測出来ない中、なかなか協力も得辛いという苦悩続きでした。で、結果的にはコース独自の4年間通したカリキュラム編成という特色を全面に押し出し、平均化されなかったのもプラスに働いたのでしょう。

——従来のデッサン力での入試判定を行わないそうですね。

日本の芸大受験において、発想力・造形力があっても受験時にデッサンが不得手なだけで合格できないという、以前から抱いていた受験システムへの疑問にメスを入れる目的もありました。ただこれはデッサンを軽視しているわけではなく、入学前に行うスクーリングでのスキルアップや、入学後のデッサンの授業を工夫することで解消されます。受験というプレッシャー下で学ぶ訳ではないことが功を奏しているのか、彼らの上達ぶりに担当した講師が驚くぐらいです。

ヒントは武将と「101匹わんちゃん」

——他にアートクリエイターで特徴的というと「One Hundred & One Creators」ですが、授業として取り入れるきっかけはなんだったのでしょうか。

デザイン学部の学生と比較すると、どうしても4年後の就職している自分がイメージできない、意識が低い。アーティストとして活動しつづけるのもなかなか難しい。そういう就職に対してのアレルギー反応を起してしまわないよう、大学4年間で学んだ専門性をもっと将来に活かせる、自然にクリエイターという職に進んでいける方法はと考えた結果が「One Hundred & One Creators (OHOC オーホック)」です。

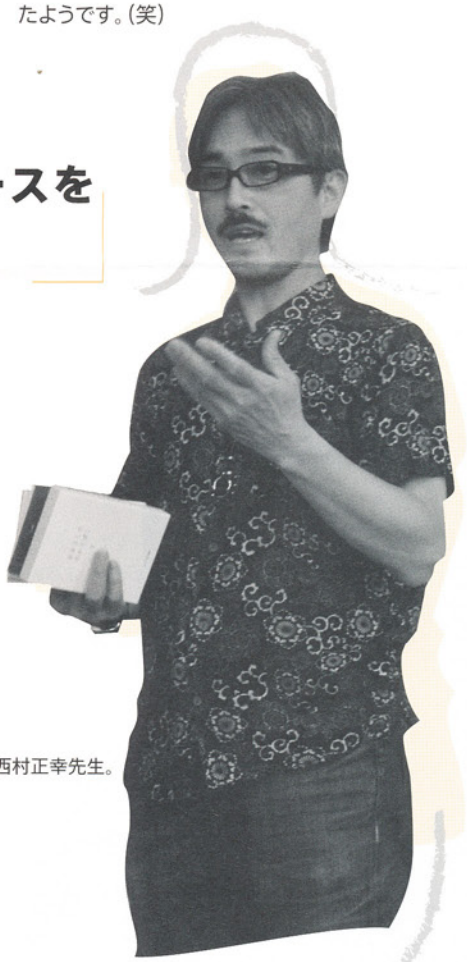
この中部地域は信長・秀吉・家康の時代からモノづくりの盛んな土地柄で、現在も様々なモノを作っている非常に多岐に渡るクリエイターがいるのですが、学生も知らないままやり過ごしてしまい、職人たちは蔑ろにされ、廃れようとしている分野も沢山あります。ならばそこに、若い人達が「すごく面白い!」と感動して後継者としてその技術を学んでくれたらという思いから、あらゆるジャンルのクリエイター(職人や作家)を大勢授業で紹介していこうということになりました。

年に2～4人特別講師として人を招くことはありましたが、いっそ4年間で100人のクリエイターに接する機会を与えてしまおう。100人に会った後は、卒業後は学ぶ側から自分が101人目のクリエイターになっている!という意識を、早い段階から芽生えさせようとう考えですね。ディズニーの「101匹わんちゃん」が「One Hundred & One Creators」に繋がっていきました。(笑)

——コースが始まって大変お忙しそうですね。

初年度は足で稼いだ広報活動が功を奏し、予想を上回る受験者数でした。2年目は、新コースや既存の授業などに追われて、なかなか初年度程広報出来なかったのでどうなるかと思っていましたが、口コミなどもありコースの認知度はかなり高かったようで、初年度を上回る受験者数となりました。

さきほどリスクという言葉を使いましたが、しいて言うならば版画コースの授業を行いながら、精力的に新コースの広報活動、新コースが動き出せば版画とアートクリエイターコース間を日に何往復も!と、ひとたびキャンパスに足を踏み入れたら休む間もない私自身は、大きなリスクを負ったようです。(笑)



西村正幸先生。

学生のやる気がコース全体の活力

とにかく毎日が忙し過ぎて、体力が持ちません。これは嬉しい悲鳴でもありますが、当初は1学年10～15人程度の学生数を想定していましたが、現在1,2年生合わせて60名を越える大所帯になってしまいました。結果、あらゆる面でいろいろなことが足りていません。一番はスタッフ不足ですね。作品講評会を13時から始めても、気がつくと外が暗くなっていた、なんてことはざらにあります。私と造形コースと兼任の岩井先生だけでは限界をすでに越えていて、専任スタッフの増員が一番の課題ですね。
ただ、多くの学生が「こんな新しいチャレンジをした。」とか「今日会った作家はすごい！」などと、その日の自分の成果に感動し感謝している様子を見るだけで、私の活力に繋がっています。

――これからさらに力を入れていこう、新しい試みなどございますか？

とにかく、1期生がどんなクリエイターとなって社会に貢献するか、これがアートクリエイターコースが何より力を入れて行くことです。
ホスピス・緩和ケア病棟に入院するがん患者さんのための美術での関わりや、商店街再生に美術で関わることなど、対外的な活動にも積極的に関わっていますので、それらを継続させて行くことも大切にしたいです。

――お話ありがとうございました。■

芸術の追求／自分、人、社会。

伊藤里佳さん

版画コース34期卒

アートクリエイターコースで技術補助員として毎日ハツラツ、笑顔で頑張っている伊藤さん。
一昨年版画コースを卒業した彼女は、新しく設立されたコースで奮闘中です。
今のアークリ（学生内での通称）を一番知っているのは彼女かもしれません。

――版画の作品や目をひくオブジェ群、そして水槽で愛嬌をふりまくイモリ2匹に囲まれたアートクリエイター研究室での事務仕事を初め、学生への指示や授業準備、撮影、パソコンサポートと大忙しの伊藤さん。新コースという事もあり大変でしょう？

アートクリエイターの学生はとにかくパワーが凄いんです。皆ヤル気に満ちていて授業後も自主的に頑張っているので刺激になります。こちらの体も自然と動いちゃう！！

――常に笑顔の伊藤さん、私も元気になります。アートクリエイターのいいところって何ですか？

なんといっても〈OHOC:オーホック〉ですね。4年間で100人のクリエイターの方たちのレクチャーを受ける。そして101人目のクリエイターが自分自身になる。学生達には興味のある、ないはあると思うけれど、いろいろな人と出会う中で自分との接点を考えられる。そこで4年後の自分をイメージできるここがスゴイ！！
次にいろいろな授業が受けられることが、すごくうらやましいです。さらにチュートリアルですね。ほぼ毎日誰かがチュートリアルをしている。先生との関係が密になるし、非常勤の先輩たちも参加しているのでアドバイスをもらえる。
他にもまだ沢山あるけれど・・・あとレビュー展かな？1年生で大学外で展覧会をします。"振り返る"と"これからを考える"いいきっかけとなり自主性も育てる良い機会です。

――魅力的ですね！逆に大変なところは？

まだ先輩がいないところ。私達はけっこう先輩に躾けられました。暗黙の了解領域とか・・・ここでは私がしつけママです（笑）

――伊藤さんの今後の展望は？

今は漠然としています・・。洋画コースから版画家の山本容子に憧れて版画コースへ。卒業後1人になって刺激が減り、版も出来ずつらかった分、大学へ戻った時意欲に満たされました。西村先生のお人柄と、ここで出会ったホスピスアート等との関わり、そして私自身の作家としての芸術への追究・・・。自分、人、社会、これらの関わりと広がりを通して今後は考えていきたいです。

――最後に研究室でパソコンに没頭しているアートクリエイターコース1期生の高間君にもちょっとインタビュー。伊藤さんについて！

「え？！うーん最初は先輩みたいだなって。年も近いし、身近な人、そんな感じ。今は近くにいないと困る。皆のことをいつも考えていてくれて・・掃除しろよ～とかね。そう、引っ張っていってくれる。アートクリエイターに必要な人！！」

里佳さんと共に何かジーンときちゃいました。
これからもハツラツと頑張って下さい！！■

デザイン科31期卒

「人を幸せにするデザイン」を目指して | 濱田 清絵さん

Kiyoe Hamada

卒業後多くのコンペで受賞し、昨年国際コンペで見事グランプリ勝ち取った濱田さんにお話を伺いました。
彼女はデザイン学部インダストリアルデザインコースを卒業後、2004年「第4回ラッキーストライク・ジュニア・デザイナー・アワード」にて審査員特別賞を。そして2007年ダイソン「womanfuman.com2007：生活改善、暮らしを変えるデザインアイディアコンペティション」Bronze Award受賞。その翌年には第6回国際コンペティション「名古屋デザインDO!2008」グランプリを受賞など大活躍しています。
現在は本学で助手も務めている彼女に、デザインに対する今の思いなど語っていただきました。

《ONSUI / 温水》
「Nagoya design DO!2008」グランプリ作品。
被災者の「食」をテーマに、被災時に、発熱カートリッジを装着すると、お湯が沸かせる湯沸かしポットを制作。インスタント食品等が食べられる。日常でもドリンクポットとして使用可能。

《Solare / ソラーレ》
鞄メーカーへ出向勤務した時にデザインした商品。
近場の旅やデイリーユースを目的とした親近感のあるスーツケース。

――まずは、ダイソン「womanfuman.2007: 生活改善、暮らしを変えるデザインアイディアコンペディション」Bronze Award、また防災用具『ONSUI【温水】』で第6 回国際コンペティション「名古屋デザインDO!2008」グランプリ受賞おめでとうございます。

ありがとうございます。「Nagoya Design DO!」のグランプリは、いまだに信じられません。この作品には、いろんな方が協力して下さり、自分一人の力で勝ち取ったものでは無いのですが、周囲にいる方が喜んでくれているのをみて、私自身喜びが倍増しました。

大学を卒業して、デザイン事務所で数年勤務していたのですが、体を壊して、残念ながら事務所を辞める事になり、落ち込んでいました。何か自分の気持ちが浮上するきっかけが欲しくて、この国際コンペに参加することに決めました。

結果にこだわらず、純粋にプロダクトデザインに取り組み、楽しんでできたことで、変に力むことの無かった事が、グランプリという結果に繋がったのかもしれません。

――作品制作において心がけていることなどありますか。

「Nagoya Design DO!」では公開審査があり、「デザインとは、人を幸せにすること、社会を幸せにすること、そして地球を幸せにすることを目指すもの。」と審査員は、おっしゃっていました。これは、大学の恩師が常に学生に伝えていた事と同じでした。

大学入学したて頃、デザインは見た目をカッコ良くする事だと思っていましたが、名古屋芸術大学で勉強して行くうちに、それは間違っている事だと分かり、デザインにのめり込んでいきました。現在は、「人を幸せにするデザイン」を目指しています。そして、自分の気持ちを素直に表現しデザインしたいと思っています。

――現在は本学デザイン学部の助手としても忙しい日々を送っていらっしゃいますね。今後どのようなことに取り組んでいきたいですか。抱負などお聞かせください。

はっきりと、「この分野のデザインがしたい!」というのは実は無いんです。

主体性の無いように思われるかもしれませんが、現在、大学の仕事の傍ら、デザインの仕事もしています。パッケージデザイン、自動車関係、生活雑貨などがありますが、基本的なデザインの考え方、手法は変わりません。毎回、違った分野のデザインは戸惑う事もありますが、新鮮な驚きや、発見があり、変化のある状況が今の自分には合っているのではないかと思っています。いろいろな経験をして行く中で、おのずと自分らしいのデザインの道がまた見つかるのでは?と自分自身楽しみにしています。

――多くの同窓生が、これからのご活躍を期待していると思います。同窓生の皆さんに一言いただけますでしょうか。

私は、デザイナーとしての経験はまだまだ浅く、修行は続きます。現在でも、学生の頃の先輩に、仕事の事やデザインについて相談する事もあります。

いろいろなメディアで、名古屋芸術大学同窓生の方が頑張っているのを見かけると、刺激になりますし、時には励まされる事もあります。

名古屋芸術大学で培ったことを糧に、同窓生同士今後も、高め合っていけたらと思います。

――卒業後からすぐにコンペで受賞するなど、精力的に活動されてる濱田さんの姿は同窓生にとっても良い刺激になるのではないでしょうか。同窓会の一員として今後ますますのご活躍をお祈りいたします。■

「お笛」に懸ける 福塚聡さん

日本画コース26期卒

歌舞伎音楽の世界で"笛方(ふえかた)"として関西舞踊会を中心に活躍中の福塚聡(藤舎伝生)さんにお話を伺いました。

―― 美術とは異分野に思えるこの道に入ったきっかけは?

自宅で三味線の師匠をしている母の勧めがきっかけです。名芸に入学してしばらく経った頃、「アナタ、大学で自由な時間が沢山あるのだからお笛やってみなさい」と突然勧められました。なぜ笛!?とは思いましたが、私はこれまで美術選択しかしてこなかったので、楽器には憧れがあり、もし自分が出来るようになるのなら…しかも月謝も払ってくれるというし…と、半ば軽い気持ちで始めました。

母方の伯父が歌舞伎の世界で囃子方をしておられて、その世界では有名な方だったので、母はもともとそちらの道に進ませたいという希望があったようです。今の師匠もその伯父に紹介して頂きました。しかしその師匠が大変すごい方だったと後になって気づき、気軽に始めてしまった事を後悔することに(笑)。

―― いつ頃プロになろうと思われたのですか?

進路を決めたのは大学卒業の頃です。とはいえ、まだその頃はとてもプロとしてやっていけるような実力はありませんでしたし、具体的にどうしていったらいいのかも解りませんでした。ただ熱心に教えて下さる師匠についていっているだけという感じでした。それに在学中、美術学生として音楽学部の学生オペラに小道具製作の裏方として参加しており、それがとても楽しくて本気でその方面の仕事に就きたいと思っていました。笛で表に出るよりも美術裏方がいい…まだ卒業後すぐはそんな気持ちでいました。

ですが師匠が本当に熱心な方で、大変厳しく教え続けて下さっていたので自ら引き下がるわけにも行かず、必死に喰らいついているうちに今に至ったという感じです。

――笛方とはどんな仕事なんですか?

そもそもお笛といわれても色々想像されるかと思います。よく尺八?と間違われますが、私がしているのは横笛で、見た目は細くてフルートのような音階が出せる「篠笛」と、黒くて太い外観で、わざと音階が狂わせてある不思議な音色のする「能管」という二種類の笛を使い分けています。牛若丸が持っている楽器を想像していただければ少しわかりやすいでしょうか?

仕事の内容も色々あるのですが、主にしているのは日本舞踊の会などでの伴奏者?としての仕事です。最近は音響技術が発達しているのでテープを使っての発表会なども多いのですが、やはり舞台は生き物ですので生演奏でないと臨機応変に対応がききません。「テープなんかより生のお囃子さんにお願いして良かったで す。」と言われると嬉しいですね。

他にも実際に歌舞伎の舞台でやらせていただ

写真下/使用する笛は30本以上
右/移動は手製の袋に入れて

5期 神清院.河国荘と仲間達!? 第4回目だと!!

彫刻科5期 吉崎大樹

――今年も無事に?開催された5期卒ミニ同窓会も4回目とのこと。事務局にそのレポートが届きましたので、ご紹介します。

今回は、九州、湯布院という事で、地元の方、遠方の方、多々全国各地より参加いただき、恐縮でありました。

特に南海の孤島より参加いただいた!?アイアムレジェンド!!吉田福秀君、遠方よりご苦労さまでした。又次回も参加いただきあの素晴らしい歌声を御披露下さいね。

とにかく、いそがしい中、2年に一度の同窓会が、みなさんの励みと、楽しみになればと、とても小さな同窓会事務局ですが、張り切ってまいりますので宜しくご協力お願いいたします。

次回は、2011年(平成23年)6月の第一日曜日を予定しておりますので、ご家族様共々、家族旅行の一環としてお気軽にご参加ください。

又、郵便経費の削減にて、Eメールまでゴイッポウ下さい。(芸大内は岩井まで)

吉崎大樹
〒705−0003 備前市大内679-13
TEL= 0869-66-8569(FAX故障中)
携帯= 090-4809-5769
mail= b.morning-2006@docomo.ne.jp

岩井義尚
〒482−0033 岩倉市神野町平久田10
TEL= 0587-38-2656
携帯= 090-5856-7499
mail= yoshi8540iwai@docomo.ne.jp

※宴会の写真;前列左より、吉田福秀君、中村重
家内、花井利彦君、内藤哲也君、中村夫人。最後列

いたり、NHKの番組用にスタジオ収録をしたり、たまにカツラを被って映画に出演したりもしています。しばらく前に上映された「大奥」にもこっそり出演していますよ(笑)

―― この道に入って「よかった」と感じることは?

先ほど言ったことにも事に被りますが、やはり演奏を聴いてくださった方や、依頼して下さった方から、「良かったです、大変素晴らしかったです。」などとお声をかけていただけるととても嬉しいですね。自分としては一つ一つの舞台にいつも必死で、全然余裕なくやっていますし、本当は師匠や先輩が吹いた方がきっと良い演奏が…などと思ってしまいます。しかし、プロとしてさせて頂いている以上、自分が皆さんに満足していただけるようこれからも頑張りたいと思っています。

―― 今後の夢や目標を聞かせて下さい。

こちらの世界は日本の誇る芸能文化なはずですが、実際にはあまり知られていないですよね。母が三味線の師匠をしている私でも正直、あまり興味を持つことなく生活をしておりました。しかし今はせっかく日本人として生まれた以上、皆さんにもせめてお国の文化の魅力に触れるくらいの事はしてもらいたい、もっと自国の文化を知ってもらいたいという願いがあります。別に古典文化として固く捉えるのではなく、単純に笛の音って日本人の心に響くと思うんです。師匠に付けていただいた芸名の「伝生」(でんしょう)にちなんで?伝統文化を、自分の世界を、皆様にも伝えていくことが出来たらと思っています。

謙虚で奥ゆかしい人柄の反面、芸の深さを極めようとする秘めた静かな情熱を感じることが出来ました。今後の活躍を大いに期待すると共に、舞台を観る機会があれば是非と思いました。今年7月にはNHK教育TVの「芸能華舞台」に出演・収録、11月には放映される予定です。■

戦君、岩井義尚君、後列左より岩井夫人、今西夫人、吉崎剛、今西清剛君、八坂宏明君、小池敬一君、吉崎。

自分発信のワークショップ

近藤令子さん

美術文化学科35期卒

大学卒業後、愛知県立美術館の教育普及事業を中心に、企画展・所蔵品展に関わる展示替えや関連事業の運営に携わって半年。忙しい合間を縫う様に、近藤さんにお話を伺うことができました。

――教育普及とは具体的どういったことですか。

館に訪れる団体のお客様へ、展示室で作品解説を行ったり、展覧会に付随したワークショップなどを企画運営しています。

――学生時代にもこちらで学生アシスタントをなさっていたそうですね。

はい、美術館での仕事に興味がありました。卒業して就職し、より深く運営に携わることができ、

普及事業などを実際に研究・企画して学べるところでした。学生時代は近代美術史を研究していたので、作品解説時に生かされています。

また研究の傍ら、演習でワークショップの企画運営に参加する機会もありました。現場ではさまざまな来館者が訪れますが、鑑賞者の動きやニーズ、次はどう進行すべきかなどと、学生時代に経験した事が元となって自分がとっさにどう動くべきかの判断に役立っています。これらは仕事をしていく上で自信に繋がっていますね。

――まさに美術の現場にいるという感じですね。

はい。作品に直に触れられることや、その作者との触れ合いがあることが楽しいです。
また、鑑賞者とのコミュニケーションはとても勉強になります。子どもを対象とした作品解説を行うと、同じ質問でも毎回まったく違う答えが返ってくるんです。びっくりすることもあるけれど、それがとても新鮮で刺激を受けています。

――現在どのような企画に携わっていますか。

普段は展覧会は担当しないのですが事情があって、次回展の担当になりました。巡回展ということで、自分が企画できる部分は少ないですが、展覧会に併せた鑑賞会の提案や、鑑賞ガイドの制作をしたいと考えています。

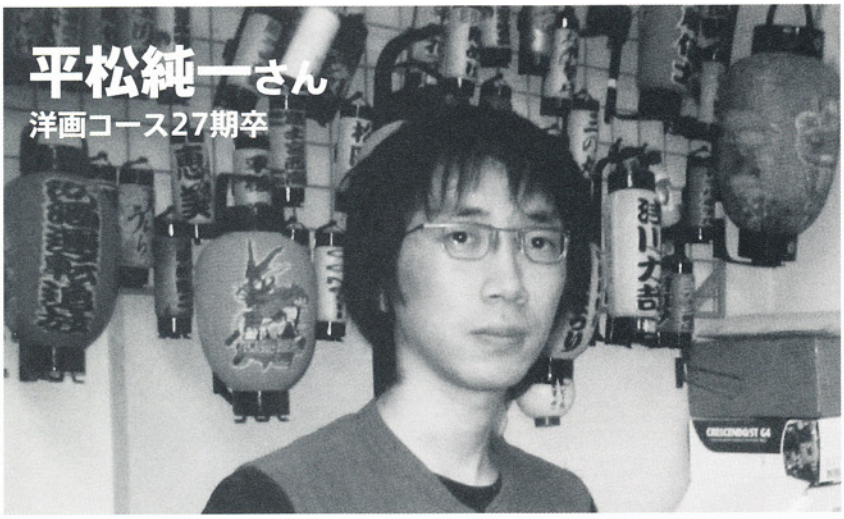
――責任も重大ですが、最後に今後の目標を。

実は今でも、学生時代に携わったワークショップなどの報告書を読み返すことがあるのですが、これまでやってきたことを今の職場で最大限に生かしたいと思っています。だから、自分発信のワークショップが提案できたらいいなと。これからも、美術館の教育普及事業を真剣に考え、携わっていきたいと思います。■

日々充実しています。
私の仕事は美術館の色々な機能、また芸術作品の見所を、楽しく興味を持ってもらえるように、来館者に伝えていく役目だと思っています。例えば小・中学校の遠足で当館を利用していただいた時などは、学校の先生方と連携しワークシートや鑑賞ガイドを制作することもあります。身近な距離で鑑賞者とコミュニケーションを取りながら、作品鑑賞のアドバイスができる、とても魅力的です。

――今社会人として仕事をなさっている中で、学生の時とは何か変化がありましたか。

私の在籍していた美術文化学科は、作家研究の他に、アートマネージメントや美術館における教育



平松純一さん
洋画コース27期卒

写真右／油彩作品

提灯屋三代目

家業である提灯作りの三代目として、仕事をしながら作品制作を続けて９年目を迎えた、平松純一さんに、伝統職人としての一面と、作家として卒業後も制作活動をする事の大切さと喜びについてお話を聞きました。

――提灯という昔ながらの日常的に使われていたものが、現代の生活の中で、どの様に根づいているのか、伺いたいのですが。

ロウソクが生活の中で照明の主流として使われていた頃、それを持ち運ぶ道具として、提灯は広く使われてわけですが、電灯が普及した現代では、絶滅危惧種の様な存在です（笑）。

しかし、竹ヒゴと紙を使って形を作り、使わない時はコンパクトに畳んで収納しておく合理的な機能性などは、日本の生活、狭い住宅事情などの知恵が生み出した優れものだと思っています。もちろん今では実用性は乏しいとはいえ、日本的なオブジェとして、飲食店のディスプレイや、観光地ではお土産品としても需要があり、また祝い事や祭礼には欠かせないものです。

――昔と今で変わったことはありますか？

やはり提灯作りも製造業として分業が進んでおり、うち（平松工芸）では、提灯の胴体に貼る紙への印刷が主な仕事になっています。昔ながらの手描きの仕事は少なくなっており、コスト面でも採算を合わせるのが難しく、大量に生産するためのシルクスクリーン印刷、写真を使った特殊印刷が増えています。

――現在では提灯はどういった需要があるのでしょうか？

先程もお話ししたように、従来からの祭り（盆踊りなどの）の飾り付け、神輿（みこし）周りの飾りに使われるものから、全国の観光地や高速道路のインターチェンジに置かれるお土産品などがあります。注文は、北海道から沖縄まで、全国からありますが、中でも東京の浅草をはじめ、関東圏の神社、それからお祭り好きな九州地方からの注文が特に多いです。

逆に地元の中部圏は、財布のヒモが固いのか、なかなか注文が取れません。

また、最近では結婚式での引き出物として、披露宴での席札（名札）に提灯を提案しています。ちなみにこれは父のアイデアですが、結構評判で、注文が入ってきています。これからも、何かの記念に提灯を贈る習慣が定着するといいかなと考えています。

――次に平松さん自身の作品制作について伺いたいのですが。

卒業して10年近くが経ちますが、学生時代制作に対する考え方はあまり変わっていません。自分の納得のいく絵を少しでも多く残すために、永く続けていけたらと思います。

今は仕事をしながらですので、学生の時の様にまとまった制作の時間はありませんが、卒業後はビエンナーレのように、3年に一度のペースで個展を開催しています。続けるための工夫としては、まず会場を確保し会期を決めてしまいます。個展開催のプレッシャーを自分にかけないと、仕事をしながら制作の時間を見つけ出すのはなかなか難しいですよ。僕の場合は、家業なので幾分時間の調整はし易いのですが（笑）。

――今後の予定について教えて下さい。

今年は12月に北名古屋市にあるギャラリープラネットで、同窓生有志の人達とグループ展があり、その後来年6月に東京のギャラリーセイコウドウで、「ヴォラン展」という若いメンバーによる展覧会に出品します。

そして、2011年に名古屋で個展を予定しており、そろそろ準備を始めるところです。

――最後にこれからの平松さんの抱負についてお聞きしたいと思います。

現代に提灯は生活必需品という訳ではないので、待っていて仕事がやって来るというものではありません。数年前から、インターネット上に、自作による「平松工芸」のホームページを立ち上げていますが、HPを見た全国のお客様からの注文が、徐々に増えてきています。今後は自分のセンスを生かして、HPを充実させることにより、提灯の魅力を紹介し、新たな広がりが作り出せたらと思います。

また、自分自身の制作も、マイペースを大切にしながらライフワークとしてより豊かなものに高めていきたいと考えています。■

「平松工芸」ホームページ
http://www3.starcat.ne.jp/~hiramatu/

花と舞い、華が咲く。

花舞伎 KABUKI 花道家小川珊鶴 半白記念 特別公演

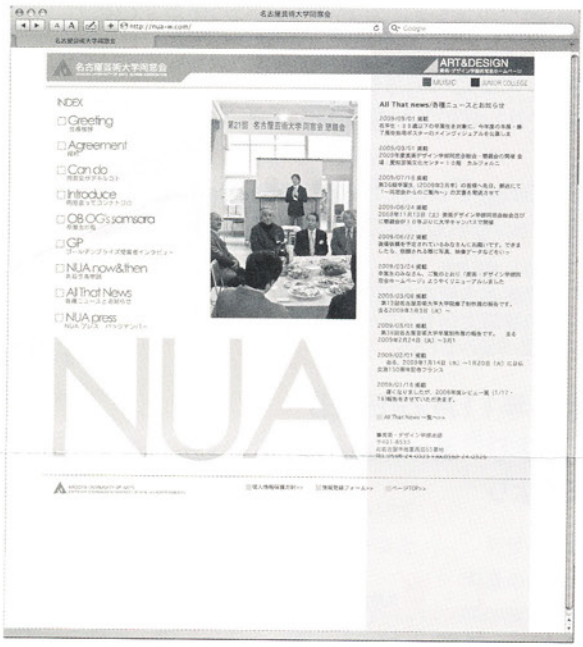
日時＝09年11月17日［火］会場＝御園座

お問い合わせ　平成芸術花院 小川珊鶴事務所 TEL. 052-981-4731

第9期絵画科日本画卒業生である小川珊鶴（本名 小川高史）氏が、来たる11月17日（火）、名古屋伏見の御園座にて、半白（50歳）の記念に、いけ花の特別講演として「花舞伎」と銘打ち、いけ花の新ジャンルに挑戦する。

オリジナル曲を含めた長唄、箏曲の演奏にあわせ春夏秋冬をテーマにした歌舞伎舞踊の物語を、花のいけ込み実演で自らも本衣装を付け、文字どおり歌舞伎のごとく舞踊りながら表現していく。当日は御園座の千数百名の観客を前にして、どのような舞台芸術が展開されるか、今から大変楽しみである。
また、本人の厚志により本学在校生50人が招待される。

同窓会ホームページがリニューアル!
アクセスは http://nua-w.com/



同窓会のホームページがリニューアルされました。
新企画として『卒業生の輪』が登場!!これは3ヶ月に1回の更新で、卒業生が友達をどんどん紹介していくコーナーです。同級生が登場するかも??お楽しみに。
そのほか『ゴールデンプライス受賞者インタビュー』で、同窓生の活躍ぶりを紹介。
『名芸今昔物語』では名芸大の歩みが詳しく掲載されています。
各種ニュースのコーナーでは卒業生から届いた個展・グループ展の案内、同窓会総会・懇親会のお知らせ等、随時更新。また、ホームページを通して皆さんからの貴重なご意見、卒業生の最新情報募集、住所変更等の登録手続きもホームページ内にご用意しています。是非一度アクセスしてみて下さい。

☞名古屋芸術大学のTOPページからもリンクされています。

再度確認を!お願いします!

振込先の口座番号など、間違いが大変多くなっています。
書類をお送り頂く前に、もう一度番号などご確認ください。よろしくお願いいたします。

様式1

後援依頼

○年○月○日

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会
会長　青木　高弘　殿

第○期○○○科卒業
○○○○○○　印

下記の作品展について後援をお願いします。

1)名　称　　○○○○展

2)場　所　　○○○ギャラリー
(住所・電話番号)

3)会　期　　○年○月○日～○年○月○日迄

4)代表者(出品者)　氏　名(第○期○○○科)
電話番号
郵便番号・住所

様式2

報告書

○年○月○日

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会
会長　青木　高弘　殿

第○期○○○科卒業
○○○○○○　印

1)名　称　　○○○○展

2)場　所　　○○○ギャラリー
(住所・電話番号)

3)会　期　　○年○月○日～○年○月○日迄

4)代表者(出品者)　郵便番号・住所
※氏　名　(第○期○○○科)・電話番号
注)※印は出品者全員記入

5)入場者数　　○○名

6)写真　　写真○点添付致します。

以上作品展について報告致しますので後援金の支給をお願い致します。
振込先/○○銀行・○○支店・○○座・No.○○
口座名義(フリガナ)

同窓会が後援を行った展覧会報告

2008年4月から2009年3月まで、同窓会が後援を行った展覧会を下記に報告します。後援依頼は後援規約をよく確かめた上、ご応募下さい。

◉近藤千鶴展　2008.4.22～4.27
ギャラリーすずき(版画26期・近藤千鶴)

◉others vol.2悲しいカレー展　2008.6.13～6.18
A&Dセンター(デザイン34期・岩田直樹)

◉第8回「つむじ」日本画・陶展　2008.7.31～8.5
妙香園画廊(日本画27期・野澤朋恵)

◉佐々木美樹子油絵展　2008.7.29～9.7
カステル フジガオカ(洋画17期・佐々木美樹子)

◉Fresh 2008 島なぎさ展　2008.8.21～9.2
伊勢現代美術館(彫刻31期・島なぎさ)

◉「常滑フィールド・トリップ2008」　2008.10.11～10.19
art & design rin'(造形34期・谷澤陽佑)

◉日・韓芸術交流展(EMSME+2)　2008.11.28～11.30
幡豆町役場(洋画32期・高木絵里奈)

◉佐竹美香展　2008.11.27～12.2
Yebisu Art Labo Gallery(絵画35期・佐竹美香)

◉第5回 三水会 絵画・彫刻展　2009.1.16～1.27
アートスペース T.A.G.IZUTO(彫刻7期・河村佳則)

◉ 第12回 若武者 日本画展　2009.1.27～2.1
ノリタケギャラリー(日本画31期・榎本幸子)

◉outopos 展　2009.2.6～2.22
APAギャラリー(洋画30期・柴田麻衣)

◉98JP展　2009.3.17～3.22
芸文センター12F アートスペースG(日本画29期・羽賀まみ子)
上記ほか、計36企画。

作品展に於ける後援規約

名古屋芸術大学美術学部同窓生による個人又はグループの作品展に対して同窓会が後援する事により、同窓生の社会に於ける活動を支援する。

1. 資格

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓生で会費を収めた者。

2. 後援金

個展・グループ展(参加者全員が同窓生であること)とも1回に二万円とし、各参加者につき年(期間:4月1日より翌年の3月末日まで)1回とする。但し、名義後援は認める。

3. 手続き

イ)会期3ヶ月前迄に後援依頼書を提出し同窓会役員会の審査を受ける。
ロ)作品展終了後1ヶ月以内に、DM及び会場(作品)写真数点を添え報告書を提出する。尚、DM及び写真は資料にするため返却出来ませんので御了承ください。

4. 条件

イ)作品展のDM・看板等に後援名「名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会」を明記する。

5. 再振込の手数料ご本人負担について

イ)報告書の振込先に間違いがあった場合は、2万円から振込組戻し手数料(840円)と、再度振込時の手数料(三菱東京UFJ銀行宛315円・他行宛630円)を差し引いた金額を、後援金として入金させていただきます。

6. 問い合わせ・送付先

名古屋芸術大学美術・デザイン学部
同窓会事務局
愛知県北名古屋市徳重西沼65
TEL0568-24-0325

第22回 同窓会総会・懇親会 開催のお知らせ

第22回同窓会総会・懇親会をこの秋開催いたします。
昨年度は母校での開催でしたが、いかがでしたでしょうか？新しく様変わりした部分もあれば、あそこは何も変わってないね、そんな声も聞かれました。みなさん様々に今の名古屋芸大を感じていただけたようです。
本年度は趣向をガラリと変えまして、愛知芸術センター内に新規オープンしたカルフォルニア料理『ウルフギャングパック レストラン&カフェ』にて開催いたします。
また会費も昨年同様無料（ご家族の方含む）です。
同期のご友人などお誘い合わせのうえぜひお越し下さい。

場所	Wolfgang Puck Restrant & Cafe （ウルフギャングパック レストラン&カフェ） 住所 〒461-8525 愛知県名古屋市東区東桜1-13-2 愛知芸術文化センター内10階 電話 052-957-5755
日時	平成21年11月29日（日）
総会	15:00より　受付は30分前から
懇親会	16:00より
会費	無料

ご注意
駐車場はご用意しておりません。
懇親会でお酒を使用した料理が出る可能性もございます。ご了承ください。
※またレストランの詳しい情報は、http://www.wp-japan.jp/をご覧下さい。

毎年ゴールデンプライズ賞を表彰しています。昨年度は写真左より順に、佐々木淳一さん（日本画）、河村佳則さん（彫刻）、テツ山下さん（デザイン）の皆さんです。

同窓会役員紹介

会長	4期	デザイン	青木高弘
副会長	19期	洋画	平田隆宏
副会長	20期	洋画	芳賀基純
副会長	22期	日本画	鈴木淳子
副会長	23期	デザイン	小林聖知
理事長	5期	洋画	杉浦尚史
理事（会計）	5期	彫刻	岩井義尚
理事（会計）	19期	洋画	石川重明
理事（会計）	20期	日本画	中村恵美子
理事（書記）	5期	日本画	白井久義
理事（書記）	12期	日本画	荒木紀江
理事（事務局長）	20期	洋画	浜辺由美
理事	21期	デザイン	永井瀧登
監査	22期	彫刻	鈴木琢磨
監査（税理士）			福海幸雄
評議員（書記）	23期	日本画	岡本昌子
評議員	4期	デザイン	平田俊也
評議員	8期	彫刻	三輪政弘
評議員	20期	洋画	川上裕里
評議員	22期	洋画	小竹陽子
評議員	27期	洋画	鎌田桂太郎
評議員	28期	日本画	佐竹亜希子
評議員	28期	日本画	水野加奈子
評議員	28期	日本画	黒川直也
評議員	28期	彫刻	加藤雄一郎
評議員	31期	日本画	榊原孔美子
評議員	31期	日本画	中川けい
評議員	32期	日本画	湯浅真奈美
評議員	33期	日本画	長谷川基子
評議員	33期	日本画	福本百恵
評議員	36期	日本画	磯田衣里

記事へのお問い合わせは…　〒481−8535　愛知県北名古屋市徳重西沼65　名古屋芸術大学西キャンパス内
美術学部・デザイン学部同窓会事務局 宛　[tel. 0568-24-0325　fax. 0568-24-0326]